

神社と絵馬

東松山市文化財専門調査員

新井 裕子



私たちが神社や寺院に出掛け何を祈願する時、あるいは願いが叶った時の御礼として、その年の干支や馬の絵が描かれた屋根形五角形の「絵馬札」を奉納する風習があります。

元々の絵馬の起源は「生きた馬」でした。

古代、神様は神馬という馬に乗って人間界にやってくると思えられていて、神事においては「生きた馬」は高価であるし、奉納された社寺にとってもその世話は大変でした。そこで本物の馬の代わりに土で作った馬形

や、馬の形の板に彩色を施した板立馬などに簡略化されていき、さらに「絵に描いた馬」で代用されるようになりました。

絵馬に描かれる画題も、「武者絵」「合戦絵」「神話絵」や、十二支など縁起のよい絵、病気を治したいと目や手を描いたりするもの、祭礼や芸能、生業や生活、拝み姿など多岐にわたっています。

箭弓稲荷神社にも多数の絵馬が奉納されており、中でも文政八年（一八二七）から元治元年（一八六四）までの時代の「武者絵」等が描かれた八枚が、東松山市指定文化財に指定されています。残念ながら、現在は劣化を防ぐため

に倉庫に保管されているため、直接拝見することはできません。箭弓稲荷神社は商売繁昌の神として神仰されと共に、養蚕繁昌の神としても信奉されています。五月の巳の日に行なわれた「巳の晩祈禱」には、「地元をはじめ南埜・北埜・兎玉・大里・北足立方面からも多くの信者が集まり、午後八時からの「蚕祈禱」の後、神社敷地内の記念館に籠り（泊り）、翌日祈禱札を受け、帰宅後は札を蚕室に貼り繭の豊作を願った」（東松山市史資料編第五巻民族編）のでした。



馬上の中国武人



関羽と張飛



予譲の仇討



武人と騎馬武者



俵藤太秀郷



牛若丸と弁慶



文人協息に寄り



呉服店



明治25年奉納「繭額」
唐子神社

（東松山埋蔵文化センター提供）

箭弓稲荷神社には養蚕講の講員名を列記した絵馬が奉納されており、唐子神社（東松山市下唐子）や若宮八幡神社（同市石橋）には、繭玉を直接板面に張りつけガラスをはめ込んだ「繭額」が残されています。飼育前に豊作祈願をして、満足できる収穫が得られたので御礼に奉納したものでしょう。

「養蚕は短期間で現金収入が得られることから、かつてはほとんどの農家で行われていた」（小川の歴史別編民族編）のですが、生活様式や経済構造の変化により、現在では比企地域でもほんの数軒のみとなっています。

近年、絵馬は地域の歴史・文化・風俗を知るための、大切な歴史資料であるという認識が進み、各地で絵馬の調査が行われていますが、私は美術的な観点から、もっと注目しても良いのではないかと考えています。